

国際教室だより

2026. 9. 16

上宇部小学校 国際教室担当

立ち止まって 考えたい 言葉やゲーム ～ さまざまな背景を想像すること ～

夏休み中、いろいろな研修や情報交換会に参加し、はっとすることがありました。
何気なく使っている言葉やゲームについて、立ち止まって考えさせられました。

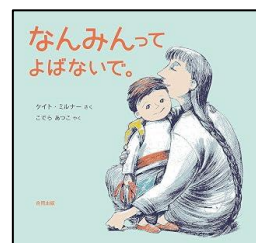
ばくだんゲーム

県内の小学校には、アフガニスタンから来日、
転入している子どもがいるそうです。
その子たちにとって、学級のお楽しみ会で
行うこのゲーム名は、どう響くでしょう。



帰宅難民

自然災害の多い昨今、日常的にこんな言葉を
耳にします。そんな時、この本を紹介され、
この言葉が示す状況や意味について、考えさせ
られました。通常は「帰宅困難者」と言うそうです。
「なんみんってよばないで」 合同出版 →



新聞紙じゃんけんゲーム

じゃんけんに負けるたびに折り曲げて
小さくなっていく新聞紙の上でバランス
をとるゲームです。イスラム教徒にとって
文字は神聖なもので、新聞の上に足を
乗せることは、冒涇とされるそうです。



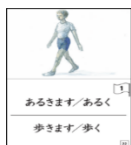
これらのこと、国際教室のある上宇部小学校では、決して「関係ない話」ではありません。
「ことばを大切に」という本校の合言葉のもと、さまざまな事情を持つ背景について、
十分想像すること、正しい情報を知っておくことが、求められるのだと思いました。

意味のあること 伝えています！



～お気に入りのカードで覚えた言葉を組み合わせて～

絵カード「みえこさんの日本語」



「動詞」

「おとあわせ おはなしカルタ」レッドアトレ



「い形容詞」



「オノマトペ」

せみ ミーンミーン

先生、みて
かめ 赤ちゃん
あるきまーす よちよち



〇〇ちゃん
さびしい
さよなら
しくしく

2年生のHIさん、まだ会話は成立しませんが、最近
お気に入りの絵カードで言葉を覚えています。すると、その言葉を
組み合わせての発語が…！目覚ましい成長に、感激しています。



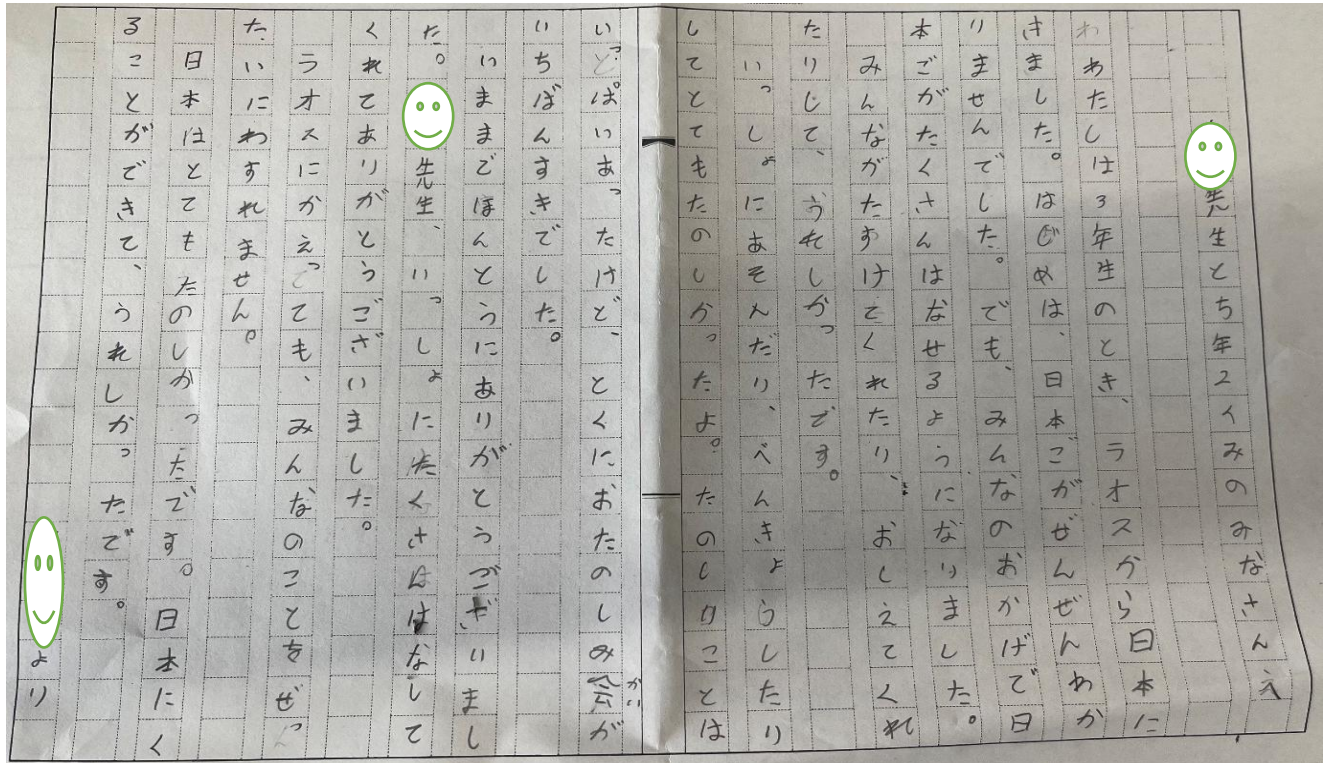


ラオスに 帰ります！ ～ 2年半の滞在を終えて ～



3年生の時、来日したALさん。当初は、日本語が全くわかりませんでした。
今では、おしゃべりが大好き。積極的にコミュニケーションを取ろうとする明るい女の子です。
そんなALさんが、今月末、ラオスに帰国することになりました。

お別れに向けて、学級の友達や先生にお手紙を書き、「涙が出ちゃう…」と、目を潤ませています。
来週予定している学級での最後のスピーチ(ラオス民話)のために、猛練習しているところです。



実は、国際教室担当の私、池田に宛てても、お手紙を書いてきてくれました。それには



「先生、ありがとう。日本ご、いっぱいはなせたり、かけたり(するのは)、**先生のせいです**。」と…。

私もかつて、英語の because of ～(～のせいで)と thanks to ～(～のおかげで)の違いを、知らなかったな～と、思い出しました(笑)。この機会に、しっかり理解してもらいました(笑)。

転出先には、日本語指導がなくて…。



7月に転出したDさん、Sさんのパパから、ご相談がありました。

「**次の学校には、日本語指導の担当や国際教室がない**ので不安です。どうしたらよいでしょう。」と。

全国的にも、限られた学校にしかサポート体制が確立していないことをご説明し、当該自治体の体制について調べてみました。先生方も、今後の参考になさってください。

本校での日本語指導記録と評価の資料を送ります。

その自治体では、学校長の申請により、必要な児童の支援を派遣する仕組みがあるとわかりました。パパは「よかった。相談してみます。」とのこと。

便を利用し、転出先へ、お手紙とこれまでの指導資料を送付します。

